

支える未来の担い手にエール!

地図や歴史に残る仕事



一般社団法人 栃木県建設業協会
会長 渡邊 勇雄

建設業は、良質な社会資本の整備や維持管理を通じ県民生活の向上や安全・安心な社会を築く事業活動を進めております。また、近年では、地震・

台風・豪雨・豪雪など頻発する自然災害に対し、緊急対応や復旧活動など、地域の大切なインフラの保全や住民のくらしを守る「地域の守り手」としての役割が増えています。

そのためにも、これまで建設業が培ってきた技術・技能を将来に亘って継承していくことが大切ですが、技能労働者の高齢化、若年入職者の減少により担い手の確保が急務となっています。本会と致しましては『建設系学科以外の出身で建設業界に従事する男女社員』をテーマとした座談会を通じ、建設業に向かうことになった動機や勤務のかたわらで資格取得を目指した熱い気持ち、周囲の理解などを語り合ってもらい、次世代を担う若者にこうした人生もあると共感を得られたら幸いと期待しております。

明後日(11月18日)は、「十と一・十と八」をあて字にした「土(十一)木(十八)の日」です。あらためて、建設業は地図や歴史に残るランドマークをつくり、災害時にはいち早くかけつけて応急・復旧作業など大切なミッションを担う、恰好良くやりがいのある仕事であることを、おわかり頂ければ幸いです。

結びに、この度の企画特集に際し、公益財団法人建設業福祉共済団の全面的なご支援を頂くとともに福田富一栃木県知事から頂いたお若い頃のご経験談が、未来を担う世代への力強いエールとなりましたことを深く感謝申し上げます。

希望と魅力ある建設業に



栃木県知事

福田 富一氏

建設業は、社会資本の整備を通じて地域経済の持続的な成長を支え、災害時には、「地域の守り手」として現場の最前線に立ち復旧作業に当たるなど、

重要な役割を担っています。

これら、地域住民の安全・安心や地域経済に貢献していくという建設業の役割は将来にわたり変わることはありません。

しかしながら、「きつい・汚い・危険」という3Kのイメージがある現在の建設業は、若年層の入職者が少なく、将来の担い手不足が懸念されています。このため県では、「働き方改革」や「生産性向上」のため、週休2日制工事やICT技術を活用した工事などを推進し、職場環境の改善に努めるとともに、児童・生徒や学生など、次の世代を担う若者にPR活動や現場見学会を行い、建設業への理解・関心を深めてもらうための取組も併せて行っています。

私は高校で建築を学び、技術さえあれば大学進学は不要と考えておりました。しかしながら、県庁入庁後、やはり大学で学びたいとの思いに駆られ、働きながら大学に通いました。仕事を終え、大学に通い、当時は一秒一秒を刻む秒針に追われ生活している思いでしたが、職場の理解や協力があり、加えて、私自身が建築への魅力を感じていたからこそ学び続けることができたと思っています。

私が当時感じた思いのように、建設業に魅力を感じた若い世代が、この業界を牽引する時代を迎えられるよう、「高い給与と長い休暇で希望が持てる」新3Kの建設業を目指して引き続き取り組んで参ります。

現在は橋、トンネルなどの社会インフラ修繕・補修工事全般を担当しています。学生時代に建設現場でアルバイトを経験することが多く、体を動かして働き、現場が仕上がっていく楽しさや充実感を味わいました。それで建設業は「自分に向いているのではないか」と思うようになり、建設会社に入社しました。

■菊池 専門学校卒業後、電気工事店や派遣会社で働いていました。今は工事課で土木工事の施工管理業務をOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=職務経験に基づく技能形成)で頑張っています。土木工事は地域のライフラインを支える仕事であり、さまざまな構造物を人が造り上げていく点に興味を持ちました。

■寺内 私は、普通高校卒業後に販売の仕事をしていましたが、現在は主に標識を扱う部署で働き、少しずつ現場にも携わるようになってきました。派遣社員としてCADオペレーターを経験したことがきっかけで建設業に興味を持ち、実際に現場で働く人たちの活躍を見て強く引かれ入社しました。

■岩原 土木工学科で勉強し、大手ゼネコンを経て現在に至るとい、業界ではスタンダードな経歴の私に



高村宏之副委員長

とって、指定外(建設系以外)から、この業種に入り、頑張っている皆さんには頭が下がる思いがします。

■吉田 私も土木工学科を出て、東京で6年働いた後、家業を継ぎ現在に至っています。若手の人材不足という課題を抱える中、専門の学科を出ても他業種に就職するという若者も多くいるそうです。やはりハードルが高いか、厳しい業界というイメージを持たれているのでしょうか。しかし皆さんは、志高く目指した道を進み、建設業界で働き続けていることに感謝します。

■高村 私も土木工学科を出ていますが、皆さんとは全く逆で、高校卒業後、実は料理人になりたかったんです。でも家業を継がねばならぬ今の立場にありますが、皆さんの話を聞いていて、私も家業を継いできて良かったと思っています。わが社にも若い社員がおろ一生懸命勉強していますが、彼らには社外の学校で学ばせました。なぜなら私たちが取得した当時と比べると試験の難易度が上がっており、真剣に取り組まなければならないためです。そこを突破してきた皆さんは素晴らしい存在だと思います。



吉田巨副委員長